

# デーヴォ ガイド



**2023.3.27-4.2 2023**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior  
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II  
Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## 27日 月曜

### I サムエル

28:15 サムエルはサウルに言った。「なぜ、私を呼び出して、私を煩わすのか。」サウルは言った。「私は困りきっています。ペリシテ人が私を攻めて来るのに、神は私から去っておられます。預言者によっても、夢によっても、もう私に答えてくださらないのです。それで、私がどうすればよいか教えていただくために、あなたをお呼びしました。」

28:16 サムエルは言った。「なぜ、私に尋ねるのか。【主】はあなたから去り、あなたの敵になられたのに。」

28:17 【主】は、私を通して告げられたとおりのことをなされたのだ。【主】は、あなたの手から王位をはぎ取って、あなたの友ダビデに与えられた。

28:18 あなたが【主】の御声に聞き従わず、主の燃える御怒りをもってアマレクを罰しなかったからだ。それゆえ、【主】は今日、このことをあなたにされたのだ。

28:19 【主】は、あなたと一緒にイスラエルをペリシテ人の手に渡される。明日、あなたもあなたの息子たちも、私と一緒にいるだろう。【主】は、イスラエルの陣営をペリシテ人の手に渡されるのだ。」

28:20 すると、サウルはただちに地面に倒れて棒のようになり、サムエルのことばにおびえた。しかも、その日一昼夜、何も食べていなかったのので、力は失せていた。

28:21 女はサウルのところに来て、サウルが非常におじ惑っているのを見て彼に言った。「あなたのはしためは、あなたが言われたことに聞き従いました。私はいのちをかけて、あなたが言われたことばに従いました。」



28:22 今度はあなたが、このはしためが申し上げることをお聞きください。パンを少し差し上げます。それをお食べください。お帰りのとき、元気になられるでしょう。」

28:23 サウルはこれを断って、「食べたくない」と言った。しかし、彼の家来も女もしきりに勧めたので、サウルはその言うことを聞き入れて地面から立ち上がり、床の上に座った。

28:24 女の家肥えた子牛がいたので、彼女は急いでそれを屠り、また、小麦粉を取って練り、種なしパンを焼いた。

28:25 それをサウルと家来たちの前に差し出すと、彼らは食べた。そしてその夜、彼らは立ち去った。

サウルにとっては霊媒という間違った方法ですが、神の預言者サムエルとの接点が見出せませんでした。しかし神様は哀れみ深い方なので、彼に語られたのでしょうか。すべては主の許しと支配の中で起きることですから、私たちはあらゆる状況において主の御心を悟る者でありたいと思います。

サウルはそこまで気落ちしても、悔い改めて主に立ち返ることをしませんでした。思えばこれまでにたくさんのチャンスがあったのに悔い改めなかったのです。そして自分に良くしてくれる家来や、食べ物などで一時の満足や安心を得ていました。

私たちは主こそが本当の満足、安心であることを忘れないようにしましょう。それゆえに間違いに気づいたなら、主の御心に立ち返りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 28日 火曜

### I サムエル

29:1 ペリシテ人は全軍をアフエクに集結し、イスラエル人はイズレエルにある泉のほとりに陣を敷いた。

29:2 ペリシテ人の領主たちは、百人隊、千人隊を率いて進み、ダビデとその部下は、アキシュと一緒にその後続いた。

29:3 ペリシテ人の首長たちは言った。「このヘブル人たちは、いったい何なのですか。」アキシュはペリシテ人の首長たちに言った。「確かにこれは、イスラエルの王サウルの家来ダビデであるが、この一、二年、私のところにいる。私のところに落ちのびて来てから今日まで、私は彼に何の過ちも見出していない。」

29:4 ペリシテ人の首長たちはアキシュに対して腹を立てた。ペリシテ人の首長たちは彼に言った。「この男を帰らせてほしい。あなたが指定した場所に帰り、私たちと一緒に戦いに行かせないでほしい。戦いの最中に、われわれに敵対する者となってはいけない。この男は、どのようにして自分の主君の好意を得るだろうか。ここに居る人たちの首を使わないだろうか。」

29:5 この男は、皆が踊りながら、『サウルは千を討ち、ダビデは万を討った』と歌っていたダビデではないか。」

29:6 そこでアキシュはダビデを呼んで言った。「【主】は生きておられる。あなたは真つ直ぐな人だ。あなたには陣営で、私と行動をとんでもしてもらいたかった。あなたが私のところに来てから今日まで、あなたには何の悪いところも見つけなかったからだ。しかし、あの領主たちは、あなたを良いと思っていない。



29:7 だから今、穏やかに帰ってくれ。ペリシテ人の領主たちが気に入らないことはないでくれ。」

29:8 ダビデはアキシュに言った。「私が何をしたというのですか。あなたに仕えた日から今日まで、しもべに何か過ちでも見出されたのですか。わが君、王様の敵と戦うために私が出陣できないとは。」

29:9 アキシュはダビデに答えて言った。「私は、あなたが神の使いのように正しいということをよく知っている。だが、ペリシテ人の首長たちが『彼はわれわれと一緒に戦いに行ってはならない』と言ったのだ。」

29:10 さあ、一緒に来た自分の主君の家来たちと、明日の朝早く起きなさい。朝早く、明るくなり次第出発しなさい。」

29:11 ダビデとその部下は、翌朝早く、ペリシテ人の地へ帰って行った。ペリシテ人はイズレエルへ上って行った。

とうとうダビデは同胞であるイスラエルと戦わなければならなくなりました。彼は苦しんだと思われれます。しかし神は哀れみ深い方であって、ダビデは帰ることになり、戦わないですみました。

主の守りがなければダビデであってもどうなっていたか分かりません。この場合、ただ戦わなくて済んで良かったと終わらせてしまうこともできません。また主の不思議な守りと導きがあったと悟ることもできます。

私たちは主の哀れみを思い起こし、感謝し、主が守ってくださったから今日があると謙遜でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 29日 水曜

### I サムエル



30:1 ダビデとその部下が三日目にツィクラグに帰ったとき、アマレク人はすでに、ネゲブとツィクラグを襲っていた。彼らはツィクラグを攻撃して、これを火で焼き払い、

30:2 そこにいた女たちを、子どもも大人もみな捕らえ、一人も殺さず、自分たちのところへと連れ去っていた。

30:3 ダビデとその部下が町に着いたとき、なんと、町は火で焼かれていて、彼らの妻も息子も娘も連れ去られていた。

30:4 ダビデも、彼と一緒にいた兵たちも、声をあげて泣き、ついに泣く力もなくなった。

30:5 ダビデの二人の妻、イズレエル人アヒノアムも、ナバルの妻であったカルメル人アビガイルも連れ去られていた。

30:6 ダビデは大変な苦境に立たされた。兵がみな、自分たちの息子、娘たちのことで心を悩ませ、ダビデを石で打ち殺そうと言い出したからだった。しかし、ダビデは自分の神、【主】によって奮い立った。

30:7 ダビデは、アヒメレクの子、祭司エブヤタルに言った。「エポデを持って来なさい。」エブヤタルはエポデをダビデのところを持って来た。

30:8 ダビデは【主】に伺った。「あの略奪隊を追うべきでしょうか。追いつけるでしょうか。」すると、お答えになった。「追え。必ず追いつくことができる。必ず救い出すことができる。」

30:9 ダビデは六百人の部下とともに出て行き、ベソル川まで来た。残ることになった者は、そこにとどまった。

30:10 ダビデと四百人の者は追撃を続け、疲

れきってベソル川を渡れなかった二百人の者が、そこにとどまった。

30:11 兵たちは野で一人のエジプト人を見つけ、ダビデのところに連れて来た。彼らは彼にパンをやって、食べさせ、水も飲ませた。

30:12 さらに、ひとかたまりの干しいちじくと、二房の干しぶどうをやると、そのエジプト人はそれを食べて元気を回復した。彼は三日三晩、パンも食べず、水も飲んでいなかったのである。

30:13 ダビデは彼に言った。「おまえはだれのものか。どこから来たのか。」すると答えた。「私はエジプトの若者で、アマレク人の奴隷です。私が三日前に病気になったので、主人は私を置き去りにしたのです。」

30:14 私たちは、クレタ人のネゲブと、ユダに属する地と、カレブのネゲブを襲い、ツィクラグを火で焼き払いました。」

30:15 ダビデは彼に言った。「その略奪隊のところに案内できるか。」彼は言った。

「私を殺さず、主人の手に私を渡さないで、神にかけて私に誓ってください。そうすれば、あの略奪隊のところに案内いたします。」

ガテの王アキシュを頼ってツィクラグに身を寄せていたダビデでしたが、それは神様をないがしろにする人を頼りにしたということでした。そしてその結果が出てしまいました。そこは決して安全なところではなく、結果的には敵に襲われて家族もさらわれてしまったのでした。

ダビデは我に返ったように主の御心を求め、そして主は単純に答えてくださいました。また助け手をも与えてくださったのです。

このように主のみ頼るという決心がなければ、

結局は主の敵にさえ依存してしまうことになる」と聖書は教えています。

私たちは気をつけなければなりません。そして不信仰に気づいたなら、すぐに主の御心を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 30日 木曜

### I サムエル



30:16 彼はダビデを案内して行った。すると、なんと、アマレク人たちはその地いっばいに散って食べたり飲んだりし、お祭り騒ぎをしていた。彼らがペリシテ人の地やユダの地から奪った分捕り物が、とても多かったからである。

30:17 ダビデは、その夕暮れから次の夕方まで彼らを討った。らくだに乗って逃げた四百人の若者たちのほかは、一人も逃れることができなかった。

30:18 ダビデは、アマレクが奪い取ったものをすべて取り戻した。ダビデは、二人の妻も救い出した。

30:19 子どもも大人も、息子たちも娘たちも、分捕られた物も、彼らが奪われたものは、何一つ失われなかった。ダビデは、これらすべてを取り戻した。

30:20 ダビデはまた、すべての羊と牛を奪った。兵たちは家畜の先に立って導き、「これはダビデの戦勝品だ」と言った。

30:21 ダビデは、疲れてダビデについて来ることができずにベソル川のほとりにとどまっていた二百人の者のところに来た。彼らは、ダビデと彼に従った者たちを迎えに出て来た。ダビデは、この人たちに近づいて彼らの安否を尋ねた。

30:22 ダビデと一緒にいった者たちのうち、意地の悪い、よこしまな者たちがみな、口々に言った。「彼らは一緒に行かなかったのだから、われわれが取り戻した分捕り物は、分けてやるわけにはいかない。ただ、それぞれ自分の妻と子どもを連れて行くがよい。」

30:23 ダビデは言った。「兄弟たちよ。

【主】が私たちに下さった物を、そのようにしてはならない。主が私たちを守り、私たちを襲った略奪隊を私たちの手に渡されたのだ。

30:24 だれが、このことについて、あなたがたの言うことを聞くだろうか。戦いに下って行った者への分け前も、荷物のそばにとどまっていた者への分け前も同じだ。ともに同じく分け合わなければならない。」

30:25 その日以来、ダビデはこれをイスラエルの掟とし、定めとした。今日もそうである。

30:26 ダビデはツィクラグに帰って来て、友人であるユダの長老たちに戦勝品の一部を送って言った。「これはあなたがたへの贈り物で、【主】の敵からの戦勝品の一部です。」

30:27 その送り先は、ベテルの人々、ラモテ・ネゲブの人々、ヤティルの人々、

30:28 アロエルの人々、シフモテの人々、エシュテモアの人々、

30:29 ラカルの人々、エラフメル人の町々の人々、ケニ人の町々の人々、

30:30 ホルマの人々、ポル・アシャンの人々、アタクの人々、

30:31 ヘブロンの人々、すなわち、ダビデとその部下がさまよい歩いたすべての場所の人々であった。

ダビデは苦しい状況ゆえに信仰を守り通せずに、神をあなごる異邦人を頼りとしてしまいましたが、主の御心を求めるように変わり、主は哀れんで彼を助けました。主の前に大切なのは自分を変えることです。

目覚しい働きをした者がその利益を独占しよう

としましたが、ダビデはこれをいさめました。主の勝利は旧約時代も新約時代も主のものです。よく働いた者も主の恵と力によるのです。祝福は主からのもの、栄光は主のものであることを知りましょう。へりくだった言動に終始し、主に感謝を表しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 31日 金曜

### I サムエル

31:1 さて、ペリシテ人はイスラエルと戦った。イスラエルの人々はペリシテ人の前から逃げ、ギルボア山で刺されて倒れた。

31:2 ペリシテ人はサウルとその息子たちに追い迫って、サウルの息子ヨナタン、アビナダブ、マルキ・シュアを打ち殺した。

31:3 攻撃はサウルに集中し、射手たちが彼を狙い撃ちにしたので、彼は射手たちのゆえにひどい傷を負った。

31:4 サウルは道具持ちに言った。「おまえの剣を抜いて、私を刺し殺してくれ。さもないと、あの無割礼の者たちがやって来て、私を刺し殺し、私をなぶりものにするだろう。」しかし、道具持ちは非常に恐れて、とうていその気になれなかった。それでサウルは剣を取り、その上に倒れ込んだ。

31:5 道具持ちは、サウルが死んだのを見ると、自分も剣の上に身を伏せて、サウルとともに死んだ。

31:6 こうしてその日、サウルと三人の息子、道具持ち、それに彼の部下たちはみな、ともに死んだ。

31:7 谷の向こう側とヨルダン川の向こう側にいたイスラエルの人々は、イスラエルの兵士たちが逃げ、サウルとその息子たちが死んだのを見て、町々を捨てて逃げた。それで、ペリシテ人がやって来て、そこに住んだ。

31:8 翌日、ペリシテ人が、刺し殺された者たちからはぎ取ろうとしてやって来たとき、サウルと三人の息子たちがギルボア山で倒れているのを見つけた。

31:9 彼らはサウルの首を切り、彼の武具をはぎ取った。そして、ペリシテ人の地の隅々に



まで人を送り、彼らの偶像の宮と民とに告げ知らせた。

31:10 彼らはサウルの武具をアシュタロテの神殿に奉納し、彼の死体はベテ・シャンの城壁にさらした。

31:11 ヤベシュ・ギルアデの住民は、ペリシテ人がサウルに行った仕打ちを聞いた。

31:12 そこで勇士たちはみな立ち上がり、夜通し歩いて行き、サウルの死体と息子たちの死体をベテ・シャンの城壁から取り下ろし、ヤベシュに帰って来て、そこでそれらを焼いた。

31:13 彼らはその骨を取って、ヤベシュにあるタマリスクの木の下に葬り、七日間、断食した。

イスラエルの民が望んで与えられた王サウルでしたが、その末路は悲惨なものでした。彼はかつては立派な外見を持ち、人柄は謙遜で、王としてふさわしい者でしたが、神の命令を軽んじたために聖霊が離れ、それゆえ不安と情緒不安定、そして疑心暗鬼に陥り、奇行を重ねるようになってしまったのです。

根本原因は神の命令を軽んじたこと、またそれによって聖霊が去られたことが重要なポイントです。

後の王もみな主に従うかどうか全てに分かれ道になります。それは私たちも同じです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





1:1 イエス・キリストのしもべ、ヤコブの兄弟ユダから、父なる神にあって愛され、イエス・キリストによって守られている、召された方々へ。

1:2 あわれみと平安と愛が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。

1:3 愛する者たち。私たちがともにあずかっている救いについて、私はあなたがたに手紙を書こうと心から願っていましたが、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。

1:4 それは、ある者たちが忍び込んできたからです。彼らは不敬虔な者たちで、私たちの神の恵みを放縱に変え、唯一の支配者であり私たちの主であるイエス・キリストを否定しているので、以下のようなさばきにあうと昔から記されています。

1:5 あなたがたはすべてのことをよく知っていますが、思い起こしてほしいのです。イエスは民をエジプトの地から救い出しましたが、その後、信じなかった者たちを滅ぼされました。

1:6 またイエスは、自分の領分を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。

1:7 その御使いたちと同じように、ソドムやゴモラ、および周辺の町々も、淫行にふけて不自然な肉欲を追い求めたため、永遠の火の刑罰を受けて見せしめられています。

1:8 それにもかかわらず、この人たちは同じように夢にふけて、肉体を汚し、権威を

認めず、栄光ある者たちをののしっています。

1:9 御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて悪魔と論じて言い争ったとき、ののしってさばきを宣言することはあえてせず、むしろ「主がおまえをとがめてくださるように」と言いました。

1:10 しかし、この人たちは自分が知りもしないことを悪く言い、わきまえない動物のように、本能で知るような事柄によって滅びのです。

1:11 わざわいだ。彼らはカインの道を行き、利益のためにバラムの迷いに陥り、コラのように背いて滅びます。

1:12 この人たちは、あなたがたの愛餐のしみです。恐れる心もなく一緒に食事をしますが、自分を養っているだけです。彼らは、風に吹き流される雨無し雲、枯れに枯れて根こそぎにされた、実りなき秋の木、

1:13 自分の恥を泡立たせる海の荒波、真っ暗な闇が永遠に用意されている、さまよえる星です。

1:14 アダムから七代目のエノクも、彼らについてこう預言しました。「見よ、主は何万もの聖徒を引き連れて来られる。

1:15 すべての者にさばきを行い、不敬虔に生きる者たちのすべての不敬虔な行いと、不敬虔な罪人たちが主に逆らって語ったすべての暴言について、皆を罪に定めるためである。」

1:16 彼らは、ぶつぶつ不満を並べる者たちで、自らの欲望のままに生きています。その口は大げさなことを語り、利益のために人にへつらいます。

ユダ書は当時入って来た間違った教えから教会を守るために書かれました。罪は赦され律法から解放されているのだから、何をしても許されるのだという間違いです。ただ、さばかれぬという安心感だけで、十字架にかかってまで救ってくださった主の愛も分らず、主に従おうとしない人々です。

神によるさばきということが分らないと、それは人間が都合よく想像した神々と同じ存在になってしまいます。イエス様の十字架の意味も分りませんし、自分が救われたことのすばらしさも実感できません。主がさばくお方であるということを経験しながら、救われたことを感謝しましょう。正しい人生を歩めることを確信しましょう。悔い改めるべきことがあるなら、祈りて告白して赦されてきよめられましょう。

カインは犠牲のなきささげ物をしました。十字架の犠牲をないがしろにする人々のことを言っているのだと思われます。バラムは自分の都合を優先して、神を利用するような人です。それは偶像礼拝をもたらします。コラはモーセに逆らった人で、主の指導者や秩序に反抗する人のことを表しているようです。

このような種類の人々によって教会は悩まされます。ユダはこの種の「彼ら」を野放しにするのではなく、「彼らを罪に定める」と言っています。間違いを野放しにすることは、決して愛ではありません。救われるべき他の人々に混乱を与え、十字架の救いを無にしてしまうからです。十字架の愛ほど大きな愛はないのですから、その愛が注がれるように導くのが、本当の愛です。

①神の愛のこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど) ②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど) ③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか) ④この世にあって何を実践しますか？

1:17 愛する者たち。あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの使徒たちが前もって語ったことばを思い起こしなさい。

1:18 彼らはあなたがたにこう言いました。

「終わりの時には、嘲る者たちが現れて、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう。」

1:19 この人たちは、分裂を引き起こす、生まれつきのままの人間で、御霊を持っていません。

1:20 しかし、愛する者たち。あなたがたは自分たちの最も聖なる信仰の上に、自分自身を築き上げなさい。聖霊によって祈りなさい。

1:21 神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに導く、私たちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

1:22 ある人々が疑いを抱くなら、その人たちをあわれみなさい。

1:23 ほかに人たちは、火の中からつかみ出して救いなさい。また、ほかに人たちは、肉によって汚された下着さえ忌み嫌い、神を恐れつつあわれみなさい。

1:24 あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、

1:25 私たちの救い主である唯一の神に、私たちの主イエス・キリストを通して、栄光、威厳、支配、権威が、永遠の昔も今も、世々限りなくありますように。アーメン。

教会を惑わす間違った教えに対して、正しい信仰のクリスチャンがどのように行動すべきかが、書かれています。

「終りのときには」とありますから、これは起こ

り得ることであり驚くようなことではないと分ります。どんな教会も主のものである以上、主の敵であるサタン攻撃はあるのです。サタンは信仰を曲げようとします。うるたえる必要はないのです。

そして私たちは「最も聖い信仰（それはすでに持っているのです）」を土台とし、「聖霊によって」祈り、「神の愛のうちに」保ち「イエスのあわれみ」を待つことです。主体は自分ではなく主イエスにあることがわかります。

その上で「人々をあわれみ」で救うことです。「つかみ出して救い」とありますから、多少強引な方法も必要な場合があるということです。それでいて「下着さえも忌みきらいなさい」というように、間違った信仰理解で汚れた生活をしている人々とは、厳肅に一線を引いて同化しないようにとも警告しています。

それらすべての導き手は「守ることができ…御前に立たせることのできる」イエス様以外にありません。今は終わりの日であり、ときには際どい霊的戦いへと導かれることもあります。全ての力は主イエスから来ますから、与えられた役割を果たしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

